

効果のあった実践事例

学年 第2学年 教科等 算数科

単元・内容 「三角形と四角形」

検索キーワード 三角形と四角形を弁別する

○ ねらい

- ・三角形や四角形の定義を根拠として、弁別の理由を考えることができる。

○ 手立て

共有化（算数用語を児童に分かりやすい言葉に置き換える）

ポイント！

- ・分かりやすく短い言葉。

1 算数用語を分かりやすい言葉に置き換えてイメージしやすくする。

辺→「へーん」と言いながら辺を指でなぞらせる。

頂点→「つつん」と言いながら頂点を指でさわらせ、とがっているところとイメージさせる。

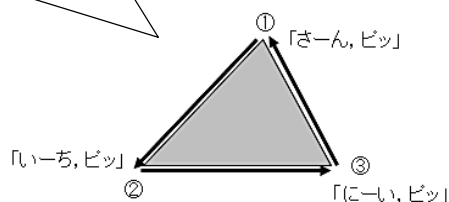
動作化・音声化（動きを伴って数を数える）

ポイント！

- ・高学年（反時計回りにA, B, Cとなる）
につながるように、反時計回り。

2 辺を指でなぞらせて、辺の数を数えさせる。

- ・三角形（四角形）が3本（4本）の直線で囲まれていることを理解することができるように、頂点で指を止め、「いーち、ピッ。にーい、ピッ。さーん、ピッ。」と言いながら辺の数を数える。

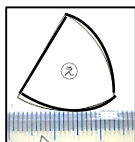


この図形は、角が丸くて頂点がないので「ピッ。」と止まる場所がありません。だから、四角形ではありません。



操作化

3 定規を辺にあてて直線かどうか確かめさせるようにする。



辺と定規がピッタリ重なりません。辺が直線になっていないので、三角形ではありません。



○ 児童の変容

- ・算数用語（三角形と四角形の定義等）を使って三角形や四角形の弁別の理由を、説明することができた。
- ・辺を指でなぞることと、頂点で一度止めることにより、正確に辺の数を数えることができた。また、角が丸まっている図形が三角形や四角形でないことを理解することができた。
- ・直線になっていない図形について理解することができた。